

5/19~6/1 までのサバ州での体験を日記風に纏めます。この間 I さん夫妻がサバ州を訪問されたので案内をしました。

5/19

今、成田空港第二ターミナルで搭乗手続きを待っています。

私たち夫婦は、夏と冬、キナバル山の麓の町ラナウに居を移します。そこは、気候が温暖で治安が良く物価が安いことに加え、豊かな自然と人情が溢れています。ラナウはマレーシアサバ州の小さな町です。マレーシア全体で見るとマレー人が 55%、先住民が 13%の人口比率ですが、サバ州は先住民の比率が 73%と高く、マレー人は 10%しか住んでいません。国教はイスラム教ですが、サバ州はキリスト教徒が多い、というようにサバはマレーシアの中であってやや特異な州です。私たちのユートピア、ラナウは、70%以上が先住民カダザンドスン族だと推定します。明日から 3 ヶ月間、この人たちの人情に触れながら生活することができます。今月はサバ州全土でカダザンドスンにとって重要な収穫祭

(KAAMATAN) が行われており、参加するつもりです。ラナウに滞在中に、友人とサバ州内を一部周遊すること、ベトナムへ小旅行することなどを計画しています。

5/20

昨晚遅く (23:30) にラナウの定宿スラゴンホームステイにチェックイン。コタキナバル空港からスラゴンホームステイまで 2 時間半のドライブ (深夜ゆえ通常の 2 倍の 300 リンギ、約 30 円/リンギ)。今朝 7:00 に起床。10:30 ゴルフ場に到着。3 ヶ月分のグリーンフィー (400 リンギ/人) を支払う。これで 3 ヶ月間毎日ゴルフを楽しむことができます。炎天下でプレイする人は殆どいなくほぼ貸し切り状態でした。9 ホールしか回りませんでしたけどトローリーを引きながらのプレイはいい運動になります。フルショットとアプローチショットのそれぞれに課題があり、この 3 ヶ月の間に答えを得たいと思っています。プレイ後ラナウの銀行でクレジットカードを使用して現地通貨リンギを入手。SIM カード (5 リンギ) と 3 ヶ月間使用できる権利 (100 リンギ) を購入。日用品を購入後、市場でバナナをチェック。運よくバランガンがあったので購入。ここにはいろいろなバナナがあります。バランガンは表皮に斑点がたくさんあり見栄えは必ずしもよくないけどバナナの王様と呼ばれており、甘味、酸味、香りのバランスがとれた絶品です。夕方スコールと雷の歓迎を受け、涼しくなりました。



5/21

午前中は Ranau の KAAMATAN (収穫祭) に参加しました。毎年 5 月はサバ州全土で KAAMATAN が行われます。KAAMATAN は親族レベル、地域レベル、州レベルで実施され、最近では国レベルでも行われるようです。州レベルの KAAMATAN は、5/30, 31 に実施され、サバ州ではその日は休日です。KAAMATAN はサバ州の中心的人種であるカダザンドスの最も重要な祭典です。KAAMATAN を理解するためにはカダザンドスの創世記を扱った神話に遡る必要があります。悪行を重ねたので創造主 Kinoingan の逆鱗に触れ厳しい飢饉に陥れられていた人々を Kinoingan の一人娘 Huminodun が自らの身体を犠牲にして救います。KAAMATAN は米の収穫に感謝し次のよりよい収穫を祈るための儀式であると同時に人間を愛と慈悲に満ちて飢饉と飢餓から救った Huminodun を讃えるという意を含んでいます。KAAMATAN のハイライトは美人コンテストです。カダザンドス女性の中から Huminodun にもっともよく似た人を選ぶイベントで、知性に溢れた慎み深い美人が選ばれます。地区で選ばれた代表が州レベルの KAAMATAN で一堂に会しその年の女王が決定します。サバ州に近代的宗教が普及する以前に信仰されていた伝統的宗教が、未だに人々の心に深く根付いており、生活様式に強く影響しているように思います。ご関心のある方は

「カダザンドスンと収穫祭について」(<http://koba.sakura.ne.jp/Kaamatan2.pdf>)をご参照下さい。

午後はゴルフをしました。土曜日ゆえいつもより人が多く、こちらの知人に何人か会いました。



5/24

5/19 深夜にラナウに到着し、翌日から4日間ゴルフをし、多少疲労気味です。昨日はラナウで散髪しました。安い店は代金が8リンギ(30円/リンギ)程度ですが、高い店に行き27リンギ支払いました。洗髪も含め実に丁寧にしてもらったので疲れが幾分とれたように感じました。当地での理髪に備えて髪型写真を携行しています。



今日はラナウからバスでサンダカンに向かいます。写真は今朝バス停に向かう途中で見たキナバル山の雄姿です。サンダカンまで約4時間の旅程です。サンダカンのホテルでIさん夫妻をお迎えし、9日間行動を共にします。到着後明日に予定しているツアーの代金を

支払う必要があります。セピロックでオラウータンを見物し、キナバタンガン川をクルージングするというやや強行なツアーをアレンジしてもらっています。

サンダカンのホテルにチェックイン後、ツアー会社と連絡をとり、費用（358 リンギ／人）を支払いました。夕食まで時間があつたのでホテルの周辺を散策。丘の上からサンダカンの海と市街地が織りなす景観を楽しみました。



5/25

8:00, 迎えに来たツアー会社（SANDAKAN HOTSOT）の車に乗り込み、途中バスセンターに立ち寄って貰い明日ラナウへ戻るための乗車券（30 リンギ）を購入し、オラウータンリハビリテーションセンターのある Sepilok へ向かいました。園内に設けられている遊歩道を歩いていると目の前に木の上から突然オラウータンが降りてきました。オラウータンへの餌やりやビデオを鑑賞。昼食後、キナバタンガン川に向かう。小休止後、16:00 から18:30 までリバークルージング。遡上しながら木の上の天狗猿やオラウータンを観察。残念ながら象と鱔を見ることはできませんでした。両岸の鬱蒼としたジャングルを眺めるにつれ、上野逸勝氏による「北ボルネオ密林 死の行軍六〇〇キロの真実 一兵士の記録（非売品）」（英訳されて"An End to a War"というタイトルで Natural History Publications から発売されている）の記述内容を思い出しました。道なきジャングルを行軍し途中キナバタンガン川を横断するという無謀な作戦が実施され多数の尊い命が亡くなりました。ガイドによると岸边に日本人の病院あとや墓があるそうです。今日は長年の懸案であったキナバタンガンに行くことができました。本ツアーは内容が充実しており、ガイドの説明も丁寧かつウイットに富んでいたもので満足しています。



5/26

朝食後、博物館、中国寺院、中央市場などホテル周辺を散策。博物館でサンダカンの歴史を勉強。Four Points By Sheraton Sandakan という海に面したホテルで昼食を摂る。景観、味、価格の何れも OK。14:00 のバスでラナウへ向かう。東馬バスに乗りたかったけど今日は SIDA バスが運行。交互に運行するらしい。ラナウに近づいたところで検問あり。現地の人はソーシャルセキュリティーカードを提示。私たちは日本から来たと言うと「ようこそマレーシアへ」という返答を受けパスポートを提示させられることはありませんでした。一人の女性が検問にひっかかり荷物の検査など詳しく調べられたこともあり、ラナウ到着が 30 分位遅れた。不法移民のチェックが厳しく行われているものと想定します。スラゴンホームステイではルンキャン博士が自ら I さんご夫妻を歓迎してくれました。

5/27

早朝にはキナバル山が見えたが、散歩に出かけた 9:00 頃には雲に隠れてしまいました。炎天下をラナウの町まで道路の両側に茂る草木を観察しながら約 1.5 時間散策。I 夫妻はバナナやパイナップルおよびチャンパタなどが実際に生っている様子を珍しげに見ておられた。町に

到着後、ローカルケーキを食べながら小休止。野菜・果物市場やスーパーを案内し土産に適切と思われるものを紹介しました。昼食後バスミニに乗ると同時に激しいスコールが到来。しかし、殆ど濡れることなくスラゴンホームステイに戻る。この時期には珍しく午後雨が降り続いたので、明日予定しているキナバル山麓のトレッキングが気懸りです。

80歳を迎える方（スラゴンホームステイのオーナーであるオスマン博士の友人）の誕生日パーティーに誘われ、PM7:00に出かけました。大勢のお孫さんに囲まれた幸せそうなケーキカットをほほ笑ましく拝見。食事のあと歌や踊りで会は和やかに進行しました。会の主役はクリスチャンでありオスマンさんはムスリムであることにこの地が平和であることの一因を感じます。



5/28

朝食時にオスマンさんが庭のココナッツを採って提供してくれました。未だ若い実だったので果肉は硬かったけど果汁は美味しくいただきました。いつもながらの「おもてなし」に感謝します。9:00、キナバル公園に向かって出発。キナバル山頂を目指すトレール以外にもたくさんのトレールが用意されているので、2時間程度のコースを歩くつもりでしたが、昨年の地震の影響か殆どのトレールが閉鎖されていました。KIAU VIEW TRAIL が開いて

いたので歩きました。その後植物園を見学し昼食を摂り、クダサン戦争記念碑を見物してスラゴンホームステイに戻りました。夕食時に I さんとモントクを飲みながら語りました。モントクとは米から作る蒸留酒でサバ州の地酒（19度）です。ビール大瓶サイズのものが100~150円で入手でき、美味しいので日本人滞在者に好評です。



5/29

I 夫妻をサバティーガーデンとポーリング温泉に案内。日曜日で工場は止まっていたけど紅茶を作る工程を一通り見学することができました。カダザンドスの伝統的住居であるロングハウスを見物後ポーリング温泉へ。そこではでは開花直後のラフレシアを見ることができました。ラフレシアは蕾がついて開花するまで約10ヶ月要します。開花すると約1週間で枯れてしまいます。写真は順に、開花1日目の76cmの花弁、明日開花する蕾、一月後に開花する蕾、枯れてしまったものです。バタフライガーデンを見物後、鳥の目線でジャングルを観察するため林冠(木の頂)に張られた吊り橋を渡りました(キャノピーウォーク)。その後、滝まで多少厳しい山道を歩き、ダイエットの必要性を痛感しました。



5/30

友人ご夫妻に対するサバ州のご案内も終盤になりました。9:30 タクシーに乗りラナウを出発し 2.5 時間のドライブでサバ州州都コタキナバルに到着。料金は 150 リンギ、約 4,500 円。ホテルにチェックイン後、コタキナバル市街地を散策。夕食を済ませてホテルに戻るとカダザンドスの民俗舞踊ショーが行われていました。5 月はサバ州各地で当地の主要民族であるカダザンドスの最重要行事、収穫祭 (KAAMATAN) が実施され、5/30, 31 は、その最終日に当たりサバ州では祝日です。ホテルのショーはその一環で行われたものようです。



5/31

今日 (5/31) は KAAMATAN (収穫祭) の最終日です。オスマン博士のご厚意により特別席で行事を見ることができました。収穫祭は、ポボヒザンと呼ばれる心霊の専門家が、マガバウという儀式を行うことから始まります。ポボヒザンは、この世と霊の世界の橋渡しをすることができます。米や米の加工品の中にはフミノドンの心である米の精バンバゾンが存在しています。フミノドンは自らの身体を犠牲にして人間を飢饉から救った女神です。KAAMATAN はフミノドンに讃え、感謝する行事です。稲の生育過程で、鳥獣や水害、人間の行為により、バンバゾンは傷つき、バラバラに引き裂かれます。ポボヒザンは、精神世界を旅して、引き裂かれて、彷徨っているバンバゾンの部分を集めて、合体して、納屋に引き戻し、ご馳走を振舞って宥めて、次の豊作を頼みます。マガバウは、従来、田圃で行われましたが、今日では写真のように舞台上で行われます。収穫祭のハイライトは、美人コンテストです。カダザンドスの女性の中からフミノドンにもっとも相応し

い人を選ぶイベントで、知性に溢れた慎み深い美人が選ばれます。地区の収穫祭で選ばれた代表45人が一堂に会して今年の美人女王を決定する選考会が本日実施されました。もう一枚の写真は収穫祭に参加するためカダザンドスの民俗衣装で正装されたオスマンご夫妻他です。

KAAMATAN にご関心のある方は、「カダザンドスと収穫祭について」

(<http://koba.sakura.ne.jp/Kaamatan2.pdf>)をご参照下さい。



6/1

今日はI夫妻を案内する最終日です。8:00にホテルで出発し、ボート乗り場からサピ島に向かう。水しぶきを浴びながら島に渡り天狗猿の歓迎を受け、約1時間滞在。島内のトレ

ールを歩いていると大トカゲに遭遇。残念ながらシャッターチャンスを逸してしまいました。写真はサピ島の浜辺です。ホテルとの送迎及びボート往復の代金の合計は一人 69 リンギ (約 2,000)。午後からは 3 時間タクシーをチャーターして KK の名所を回りました。(タクシーチャーター代金 50 リンギ/時間)

I 夫妻がサバ州の良い思い出を胸にして無事帰国されることを祈念しています。

